

6/2研修会報告「学校におけるエピペン使用方法について」

千葉県学校薬剤師会
常任委員 木村 憲

6月2日（日）千葉県学校薬剤師会総会終了後、沢山の出席者の中、ファイザー株式会社千葉営業所の池本真人氏より「学校におけるエピペン使用について」を演題とし、アドレナリン注射液エピペンについてご講演いただいた。冒頭に昨年12月、調布中の小学校にて給食時間に起きたアナフィラキシーによる死亡事故を取り上げた、「クローズアップ現代（タイトル：守れるか給食の安全、続発アレルギー事故-検証アレルギー事故）」の放送が紹介された。粉チーズ抜きのチヂミを食べ終わった児童生徒がおかわりをして、担任がうっかりして粉チーズ入りのチヂミを与えてしまい、アナフィラキシーショックを起こしたものだ。加えて本人が喘息と訴えたので、エピペンを注射するのが遅れ、結果的に亡くなってしまった。

まずアナフィラキシーは原因物質が体内に入ってから、多くは30分以内に現れる。生死に関わる急性のアレルギー反応で循環器・呼吸器・消化器・粘膜皮膚・神経と全身に様々な症状があり、呼吸困難や意識障害に至ることが紹介された。国内での死亡例は、2011年は71件（蜂関係：16件、食物：16件、医薬品：32件）で、食物アレルギーは3番目であるが、我々が取り扱う医薬品が最も多い事は改めて薬剤師の役割と責務が問われる事を自覚させられた。しかし、幼児の食物アレルギーが10年で倍増している事、アナフィラキシーの原因の35%が食物である事から、食物アレルギーへの対応は学校現場

で急務であるだけでなく、学校薬剤師もしっかりした知識と適格な指導が求められるだろう。

エピペンの投与は、報告ではアナフィラキシー発現から心停止までが薬剤で5分、蜂毒で15分、食物で30分なので少なくともそれぞれの重症度（グレード3）では速やかに行う必要がある。また、注射にあたっては本人の楽な姿勢で打つこと、もちろん直ちに救急搬送を要請することは当然である。

更にエピペンにはアドレナリン0.15mg（体重15kg以上30kg未満）と同0.3mg（30kg）の2種があり、注射して5秒間は患部を揉んで欲しいとの説明があった。また使用期限は、米国生産時は20ヶ月だが、流通の関係で国内では1年未満となってしまう。保護者本人以外の使用は、緊急時は救命士、教職員、保育士も可能となっている。との説明もあった。

ご講演の後に質問が続いたが、○打つタイミングで副作用の発現率は低くなる○早めの投与○医師は疑わしくは投与している○8割は全身症状となっている○登録医制度、歯科は使用医登録が必要○ハチ対応の処方も可○エピペン針は1.5 cm（大腿投与は前部外側筋肉が発達している為）など、丁寧な回答があった。

平成23年度のアレルギー事故は311件を数え、何らかのアレルギーを持つ人が3万人と言われる中、我々薬剤師は薬局外の学校現場でもその責務を発揮する事が求められると実感させる勉強会となった。